

# 要 旨

## 1 作成の背景

プラネタリーヘルスは、2015年にロックフェラー財団とLancet誌合同委員会が発表した報告書「人新世における人間の健康の安全防護策」で提唱され、急速に普及した概念である。産業革命以降、人間活動の拡大により、気候変動や生物多様性の損失、環境汚染が加速し、地球環境のレジリエンスが低下した結果、これまでにない規模と進行の速さで人類の健康リスクが増大している。本報告は、プラネタリーヘルスの基本概念、蓄積された知見、並びに多様な視点を整理し、激変する地球環境において、分野を超えてウェルビーイングの向上に取り組む共通基盤を提供することを目的として取りまとめた。本報告を踏まえることにより、分野を超えた取り組みが活発化し、プラネタリーヘルスが推進されることを期待する。

## 2 現状及び問題点

プラネタリーヘルスは、人間社会が地球生態系と密接に関連し、地球システムの基盤の上に成り立っているという「システム思考」に基づき、地球環境の健全性を維持・回復することによって人間の健康とウェルビーイングを守るとする視点に立つ。カーボンニュートラル（炭素中立）の達成や持続可能な健康社会の重要性が増しており、そのために学术界、産業界、行政、民間組織、市民が連携して取り組むことには意義がある。急激な地球環境の変容の影響を最小限にとどめるためには迅速な対応が必要である。

国際的なコンソーシアムであるプラネタリーヘルスアライアンスには現在80カ国以上の500を超える組織が参加して学際的な取り組みが進められている。わが国においても、行政、産業、研究、教育、医療、地域、その他の分野で関心が高まり、プラネタリーヘルスを冠する組織や事業の取り組みがすでに始まっている。多様な取り組みがそれぞれの特色を活かして展開され、激変する地球環境において、分野を超えてウェルビーイングの向上に貢献するには、プラネタリーヘルスについて共通の理解が必要である。

## 3 報告の内容

### (1) 基本概念

プラネタリーヘルスは「人間の諸システムと地球の自然システムとに賢明な配慮を払うことによって達成可能な、最高水準の健康、ウェルビーイングとこれらの公平性を追求すること」と理解され、これを実現するためには「人類が地球の自然システムに攪乱をもたらしてきた諸活動が人間の健康及び地球上のすべての生命に及ぼす影響を把握・理解するとともに、課題解決を志向した実践的取り組みを超学際的に推進し、それを社会的なムーブメントへと発展させていくこと」が求められている。人類が安全に生存し続けるための地球環境の限界を示す「プラネタリーバウンダリーズ」や、「持続可能な開発目標（SDGs）」は、プラネタリーヘルスの概念と密接に関連している。

## (2) 地球環境の変容

気候変動、生物多様性の損失、環境汚染は、地球の三大危機と総称される。最近数十年間の気候変動は「疑う余地なく人間活動によるもの」であり、今後数十年以内の急速な温室効果ガス排出削減が不可欠である。人間活動の増大は生物多様性の損失をもたらし、自然の生態系が人間社会にもたらす多様な恩恵や便益は縮小傾向にある。消費生産活動を通じて排出される環境汚染物質は、国境を越えてその影響が拡大する。相互に関連する地球の三大危機は、人間社会と地球システムの双方に深刻な影響を及ぼしている。

## (3) 地球環境と人間の健康・ウェルビーイング

地球環境の変容に伴い、低所得国や熱帯地域では栄養不良や感染症のリスクが高まり、高所得国でも高齢者の暑熱関連死が懸念されている。気候変動の影響は農業、水資源、災害などを介して健康に波及し、食料安全保障の不安定化、精神的社会的影響、健康格差の拡大も報告されている。生物多様性は、身体的精神的な健康、ウェルビーイングとも密接に関連する一方、野生動物由来の感染症リスクの課題も併せ持つ。環境汚染では、大気や水質の汚染、薬剤耐性菌による健康課題の他、新規化学物質の大幅な増加や低濃度曝露の影響解明の進展により、健康影響の構造は一層複雑化、深刻化している。

## (4) プラネタリーヘルスの取り組み

地球環境の限界を超えずにウェルビーイングを向上させるための技術開発や方策を実社会で展開する取り組みが、様々なシステムにおいて進められている。産業システムでは、環境と人間の健康・安全性との関係を考慮し、バリューチェーン全体を通じて持続可能な製品・サービスを提供することが求められる。医療活動も地球環境への負荷をかけており、他の産業活動と同様、地球環境変化を通じて健康への負の影響をもたらす側面もある。医薬品や機材の調達と病院建築、医療施設管理、患者への医療サービスの提供、研究開発の全てのシステムにおける対策が必要である。気候変動への影響に加え、化学物質使用や廃棄物管理など温暖化以外の環境負荷に関する包括的な評価と対策、適切な医療を公平に届けるシステムの構築も課題である。都市システムでは、交通整備、生態系サービスの活用、循環経済の推進などにより、総合的な取り組みがある。食料システムにおいては、増加し続ける食料需要を満たしつつ、食料生産由来の温室効果ガス排出や生物多様性への負荷を最小化する必要がある。食生活を「プラネタリーヘルスダイエット（本文 p17 参照）」へ転換することも求められる。加えて、自らの専門性を基盤としつつ超学際アプローチを先導し、地球規模課題に取り組むことのできる人材育成の仕組みが必要である。

## (5) プラネタリーヘルスにおける規範

プラネタリーヘルスの実践にあたっては、科学的知見や技術的方策のみならず、正義や倫理に関わる規範的原則を踏まえる必要がある。気候変動や生態系の劣化による健康影響は、地理的・社会的・世代的に不均等に生じており、健康格差の拡大が指摘されて

いる。環境変動に伴うウェルビーイングの不公平を是正する正義の観点が必要である。国際条約等の文書において、プラネタリーヘルスの実現を目標とする明確な指標を設定することが重要であり、投融資やサプライチェーンを通じた企業活動の環境改善の推進も考えられる。プラネタリーヘルスは社会の多くのセクターに現状の見直しを求めるものであり、価値観や価値体系の再検討も重要な論点である。

#### **(6) 炭素中立、循環経済、自然再興とプラネタリーヘルス**

プラネタリーヘルスは、地球環境の限界の中で人間の健康とウェルビーイングを維持・向上させるための統合的アプローチである。その実現には、気候変動対策としての炭素中立、資源利用の適正化を目指す循環経済、生態系の健全性回復を図る自然再興を同時に進める必要がある。それは、環境政策にとどまらず、人間の健康・ウェルビーイングにおける公平性の確保を中核に据えた社会変革を意味する。プラネタリーヘルスは、持続可能でレジリエントな未来社会の構築に不可欠な概念的枠組みを提供するものである。